

暗唱のすすめ

〈近代文学編④〉

わがはい ねこ
吾輩は猫である

なつめ そうせき
夏目 漱石

わがはい ねこ なまえ な
吾輩は猫である。名前はまだ無い。

う どん けんとう なん うすぐら
どこで生まれたか頓と見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした

ところ な い ことだけ きおく い わがはい はじ
所でニャーニャー泣いて居た事文は記憶して居る。吾輩はここで始

にんげん ウ み
めて人間といふものを見た。

くさまくら
草枕

なつめ そうせき
夏目 漱石

やまみち のぼ コウかんが
山路を登りながら、かう考えた。

ち はたら かど た じょう さお なが いじ とお
智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば

きゆうくつ とかく ひと よ す
窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。